

## 健診データを用いた肥満指標と腎機能の推移についての縦断的検討

肥満は高血圧、糖尿病、脂質異常症のリスクのみならず、慢性腎臓病 (CKD) の危険因子として考えられている。肥満の診断は BMI を指標として行われるが、BMI では内臓脂肪蓄積を評価することができない。これまで BMI と CKD 発症についての報告は多数あるが、内臓脂肪面積と CKD 発症について注目した報告はわずかしかない。

メタボリックシンドロームは腹囲測定による内臓脂肪蓄積を基盤として高血圧、高血糖、脂質異常のリスクが 2 つ以上重なった病態である。腹囲は内臓脂肪面積の簡易マーカーとして用いられているが、実際は腹囲と内臓脂肪面積の乖離もみられ、内臓脂肪面積の実測が望ましいとされる。ゴールドスタンダードは CT による測定であるが、放射線被ばくがないデュアルインピーダンス法による内臓脂肪測定装置が医療機器として認可されている。

今回、課題研究ではデュアルインピーダンス法による内臓脂肪面積測定結果と健診結果を組み合わせたデータを用いて、肥満指標 (内臓脂肪面積、皮下脂肪面積、BMI、腹囲) と腎機能の推移や尿蛋白所見との関連を縦断的に調べる予定である。更に、内臓脂肪面積ごとにグループ分けを行い、腎機能の変動要因についても解析することを検討している。

### 【参考文献】

- Madero M et al. Comparison between different measures of body fat with kidney function decline and incident CKD. *Clin J Am Soc Nephrol.* 2017;12:893-903.
- Garofalo C et al. A systematic review and meta-analysis suggests obesity predicts onset of chronic kidney disease in the general population. *Kidney Int.* 2017;91:1224-35.
- Thomas G et al. Metabolic syndrome and kidney disease: a systematic review and meta-analysis. *Clin J Am Soc Nephrol.* 2011;6:2364-73.